

令和4年度「市長と語り合う会」について（吉田地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和4年 10月24日（月）	市民学習センター	19:00～20:00	5	0	5

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和4年度施政方針「危機を機会に転じる積極思考」

・脱炭素社会の実現に向けた取組

地球温暖化や気象変動は、二酸化炭素等の温室効果ガスの濃度が高まっていくことが原因であると言われており、そういう二酸化炭素の排出を減らすことが世界的な課題となっている。市においても二酸化炭素の削減について検討しており、共用車の1台を電気自動車にし、二酸化炭素排出量の抑制効果等の検証を行っていきたいと考えている。

・行政サービスの効率化・最適化を図る「デジタル・トランスフォーメーション」

コロナ禍において、これまでなかったような社会情勢になり、行政においても、人が動き手作業で作業することから、コンピューター等を使ったりするデジタル・トランスフォーメーションが必要とされている。市役所の窓口においても、亡くなられた方のご家族の手続きを1か所で済ませることができるよう、あるいは、今は申請書を手書きで書いていただいているが、それを職員が聞き取ってデータを入力し必要な書類を整備する書かない窓口のようなサービスを実現していきたい。

・益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

これまで市では、益田で生まれて育った子供たちが、益田に愛着をもって、将来益田市に帰り地域貢献してくれるようふるさと教育を進めてきた。

これからは、中高の6年間を一貫した形で行うことによって、その後の大学進学や就職に向けても、有利な体制を作っていきたい。

・交通インフラ及び都市基盤整備

これまで、市が最も力を入れて進めてきたのが、空の玄関口、萩・石見空港の利用拡大であるが、引き続き東京線2往復運航が続くよう、近隣の市町や県及びANAと連携して、国のほうに働きかけを行っていきたい。

高速道路については、三隅益田道路の工事が進み、令和7年度に全線開通する見込みである。益田萩間の益田西道路、益田田万川道路についても事業が進んでおり早期完成を働きかけていく。

また、益田道路について、久城から高津までの間は、本来は高架道路や橋として繋がる予定であり、この区間は高津川と益田川の浸水想定区域にもなっているので、災害の安全度を高めるためにも当区間の事業進捗を国へ要望していく。また、当該路線に隣接した高台に防災公園の設置し、日常的にはにぎわいづくり、そして、災害時には、緊急の一時避難場所として活用する計画である。

また、JR山陰本線の収支状況が非常に厳しい状況であることが報道発表された。これまで鉄

道といえば、あって当たり前というような感覚だったが、なくてはならないものであり、また山口線の開通100周年の大きな節目の年であるので、今一度、鉄道路線の利用についての機運も盛り上げていきたいと考えている。

都市基盤整備としては、益田道路の南側の土地区画整理事業を地元と連携し進めていきたい。

・ワクチン接種

新型コロナウイルスの感染症が、かなり弱体化して死亡率が減ったとはいえ、まだまだ有効な治療薬が無くワクチンが唯一の病気に対抗する手段となっている。既に3回目、或いは4回目を接種される予定の方もおられるかと思うが、今、猛威を振るっているオミクロン株にも対応したワクチンも、今後接種を受けていただく予定としており、接種を呼び掛けていきたい。

2. 市制施行70周年

昭和27年に、当時の町、村が合併して益田市が誕生し今年が70周年の年になる。11月3日に記念式典をふれあいホールみとで開催し、市の発展に貢献いただいた方々への感謝の気持ちを新たにするとともに、今後さらなる発展に向けて市民の皆様全員で気運を高めていくこととしている。併せて新型コロナウイルス感染症に対し最前線で対処されている益田市出身の医師である藤谷先生に記念講演をしていただく事としているので、ぜひ申込みいただきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 国道9号について
- ② 電気自動車について
- ③ 脱炭素社会について
- ④ マイナンバーカードについて
- ⑤ 区画整理事業について
- ⑥ 都市計画道路元町人麿線について
- ⑦ 自治会組織について
- ⑧ 中高一貫教育について

○ 閉会（秘書課長）

令和4年度「市長と語り合う会」

〔会場 市民学習センター 開催日時：令和4年10月24日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 国道9号について 自転車で安富までよく行くが、益田方面に帰る際、左側の車線の路側帯が狭く大型車の通行量も多いため危険であるので、路側帯を広くする等対策できないか。</p>	<p>① 高津川かわまちづくり計画が国に登録され、今後、豊田公民館から高津川下流までの区間においてサイクリングコースが整備される予定である。当該箇所は危険性が高いと認識しているので、重点的に国へ要望していく。</p>
<p>② 電気自動車について 電機自動車の充電スタンド設備の整備ができないか。</p>	<p>② 今後、電気自動車が主流になれば、ニーズにより民間で事業展開することが期待されるが、市も何らかの働きかけが出来ないか検討していきたい。</p>
<p>③ 脱炭素社会について 脱炭素社会に向け炭素を吸収する観点から、この地域の特性を生かし植林を増やしていったらどうか。</p>	<p>③ 二酸化炭素の吸収体には、植林が最も有効な手だてと考えている。森林環境税を活用し、植林や林道等環境整備を進めていきたい。</p>
<p>④ マイナンバーカードについて マイナンバーカードを保健証としても利用することが言われているが、危機等の際に備え、臨時的にアナログ保険証を発行できるような仕組みにしてほしい。</p>	<p>④ デジタル・トランスフォーメーションを行う1番の目的は、市民の皆さんへの行政サービスの円滑化であり、その手段としてもマイナンバーカードの普及が欠かせないと考えている。基本的には全員に取得していただくのが最適だと考えるが、市民の皆様のサービスが滞らないよう国で行っていただかないといけないと考えている。</p>
<p>⑤ 区画整理事業について 益田川右岸の区画整理事業については、組合施行で行い行政も支援するということが、具体的にどのような形になるのか。</p>	<p>⑤ 組合施工のいい面と公共施工のいい面を共有し、技術的、専門的な支援等を行っていく。公共施工同様の責任感、熱意を持って、この区画整理事業を進めていきたいと思っている。</p>
<p>⑥ 都市計画道路元町人麿線について 都市計画道路元町人麿線の高津工区が間もなく完成するが、吉田工区の見通しをお聞きしたい。</p>	<p>⑥ 吉田工区は、トンネル掘削等大規模工事となり、吉田地区の期成同盟会等、地元の皆様と連携し県へ要望を強めていきたい。</p>
<p>⑦ 自治会組織について 自治会に加入する人が減りいろいろな活動が困難となっている。強制はできないが、市から案内や促すことはできないか。</p>	<p>⑦ 共通の課題として防災を切り口に共助のための自治会設立、加入の必要性を気づいていただく、そこを啓発していくことが現実と思われる。市が主導で設立して、加入促進を図る事は困難であるので、どうやったら機運が高められるかという観点から進めていきたい。</p>
<p>⑧ 中高一貫教育について 都心部では、高校から手を伸ばし中高一貫教育になっているが、市が主導で行うには、工区廃止等考え方を変えなければ困難だと感じる。</p>	<p>⑧ 高校教育の主体者である県の教育機関、もしくは私立学校の学校法人との協議を進めていく必要があるが、可能な道を探りながら、よりよい体制を実現していきたいし、そのための工夫をしていきたいと考えている。</p>